

ヒトの心の進化を探る

Keywords : 霊長類、進化、社会関係、利他行動、他者認知

研究概要

多様な文化の中で生活するヒトも動物の1種です。では、ヒトはどのような動物でしょうか。この問いを探るためには、ヒト以外の動物、特にヒトと進化的に近縁な霊長類(ニホンザルやチンパンジーなど)との比較が重要な手掛かりになります。ヒト以外の霊長類も、仲間と一緒に生活し、ケンカをしたら仲直りをするし、道具を使うこともあります。ヒトと他の霊長類の共通点・相違点を明らかにすることでヒトという動物の特徴が浮き彫りになってくるのではないかと考えられます。

私自身は、岡山県真庭市に生息するニホンザルを対象とした行動観察を大学院生のころから継続して行ってきました。ニホンザルにもヒトと同じように個性があり、顔などの姿かたちや性格に違いがあります。私は約150頭のニホンザルの個体を識別し、彼ら彼女たちがそれぞれどのような行動をするのか調べてきました。近年では、進化的な枠組みからヒト自身の行動特性を探る研究にも取り組んでいます。

心理系専攻

講師

うえの まさたか

上野 将敬

ueno@socio.kindai.ac.jp



<https://researchmap.jp/masataka.fuscata>

<https://sites.google.com/site/masatakafuscata/>

研究テーマ

1. 毛づくろいの互惠性に関する研究

多くの霊長類は毛づくろいを行います。霊長類が毛づくろいを行う理由について様々な角度から考えることができます。毛づくろいを受けることで、シラミの卵のような寄生虫を除去してもらえたり、ストレスが減少したりするので、毛づくろいを受ける個体には利益があります。では、なぜ毛づくろいを行って相手に利益を与えるのでしょうか。

これまでの研究から見てきたことの1つは、何らかの形で毛づくろいの見返りがあるのではないかということでした。例えば、毛づくろいをしたニホンザルは、その相手から逆に毛づくろいをしてもらえます。また、冬の寒い時期には、サ

ル団子を作るときに、毛づくろいをして相手の緊張を和らげているようでした。毛づくろいについては以前から多く研究されてきましたが、まだまだ探求する余地が多い行動です。

2. 顔・表情認知に関する研究

ヒトを含め動物の集団では、全く同じ個体はおらず、それぞれの相手と個別の関係を築きます。霊長類において顔は、相手を識別したり、相手の感情を読み取ったりするために重要な手掛かりとなります。例えば、ヒトの笑顔の進化的起源はまだよくわかっていません。ヒトの笑顔の進化を探るためには、様々な類を対象とした行動の比較研究が有効だと考えられます。

また、多くの霊長類の研究者は、自種（ヒト）以外の種の個体を繰り返し観察し、個体識別を習得します。この事実は、他者を識別する能力を自種であるヒトに対してだけでなく、異種動物に対してもヒトは適用できることを示しているのかもしれない。ヒトが他者を識別する能力はどの程度柔軟なものなのかについて、ヒトを対象とした認知実験や人工知能を用いた研究から探っています。

3. 配偶者選択に関する研究

生存と繁殖は、生物の進化において欠かせない要素です。どのような相手を配偶者として好むかは繁殖の成功と関連するため、複雑な社会で暮らし豊かな個性を持つヒトにおいても、他の動物と同様に生物としての進化的な理論が当てはまるのかもしれない。ゼミの学生の皆さんも興味を持ちやすいテーマであるため、卒業研究などを通して、ヒトの配偶者選択について進化的な理論に基づいて考えています。

論文

1. Ueno, M., Yamada, K., & Nakamichi, M. (2015). Emotional states after grooming interactions in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Journal of Comparative Psychology*, **129**, 394-401.
2. 上野将敬 (2016). 霊長類における毛づくろいの互惠性に関する研究の展開, *動物心理学研究*, **66**, 91-107.
3. 上野将敬 (2017). 霊長類における親密さの量的記述, *霊長類研究*, **33**, 21-34.
4. Ueno, M. & Nakamichi, M. (2018). Grooming facilitates huddling formation in Japanese macaques. *Behavioral Ecology and Sociobiology*, **72**, 98.
5. Ueno, M., Hayashi, H., Terada, K., Kabata, R., & Yamada, K. (2019). Automatically detecting and tracking free-ranging Japanese macaques in video recordings with deep learning and particle filter. *Ethology*, **125**, 332-340.
6. Ueno, M., Yamamoto, H., Yamada, K., & Itakura, S. (2021). Individual recognition of monkey (*Macaca fuscata*) and human (*Homo sapiens*) images in primatologists. *Journal of Comparative Psychology*, **135**, 394-405.

※その他の業績についてはresearch mapをご覧ください。

趣味

美味しいものを食べるのが好きで、いい感じのお店を開拓しています。特に甘いものが好きなので、カフェで一人ケーキを食べることもあります。家にいるときは自分で料理もします。豆腐ハンバーグやブリ大根は我ながら美味しく作れると思います。その他には、旅行、アニメ、漫画などが好きです。

最後に：ゼミについて

このゼミでは、「人間とは何か?」という問いについて、生物としての観点から考えます。ヒトの心の進化的基盤を解明するためには、ヒト以外の動物の行動を調べ、ヒトとの類似点や相違点を検討することが重要な手掛かりとなります。様々な動物の行動観察を行い、その動物の生きざまを明らかにすることで、ヒトを含む動物の心の進化過程を探っていきます。他のゼミにはない特徴として、ゼミの初年度には動物園で観察実習を行います。学生の皆さんの様子を見ていると、ある程度楽しんでくれているように感じます。飲み会や合宿なども希望があれば実施します。